

年度 2007 学期 後期	曜日・校時	水 3	必修選択	選択	単位数	2
授業科目/(英語名)	人間と文化 (哲学のスズメ) Humanity and Culture (Elementary Philosophy)					
対象年次	1・2年次	講義形態	講義	教室		
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類	人文・社会科学科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員: 永嶋哲也 / Eメールアドレス: tetsu@lit.kyushu-u.ac.jp / 研究室: 非常勤講師控室 / オフィスアワー: 講義の行なわれる日(後期の毎週水曜日)午後4時から4時30分まで、非常勤講師室にて					
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標	<p>授業のねらい: 哲学は歴史上、対話という形式から出発した。つまり相手の話を理解し、自分自身で考えるという形から哲学という営みは始まった。この「相手の話を理解し、自分自身で考える」という基本的だけれども実行の難しい哲学的な思考態度を身につけてもらうことをこの講義は目指す。</p> <p>授業方法: オーソドクスな形式の講義。つまり要点を板書し、それについて説明する。 また学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらい、それにコメントをする。</p> <p>授業到達目標: 抽象的な物事であっても正しく理解し、自分自身で論理的に考えることができるようになる。</p>					
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)	<p>授業内容(概要) 例えば「在る」とか「知る」「正しい」「ところ」などの言葉の意味とはどういうものだろうか？言いかえれば、そういうもの/ことというのは、日常にありふれていて、なにげなくて使っているけれども、いざ「それは何?」「どういうもの/こと?」と訊ねられるとその答えに困ってしまう。そういう身近だけれども考えてみれば謎な事柄こそ、哲学の主要問題・中心問題になるのだと思う。だからこの講義では哲学入門のために、誰かの思想や名言ではなくて、事柄中心に、つまり上で書いたような主要問題を中心に取り上げる。</p> <p>今年度は、つぎのようなテーマを取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・存在 「ある」とはどういう意味か?</li> <li>・時間 何かが流れているのか?</li> <li>・行為 何かを「為す」といとはどういうことか?</li> <li>・自由 われわれは自由に何かを為しているのか?</li> </ul> <p>各テーマについて、なぜその問題が問われるのか、どのような仕方では問われるのかを紹介したい。それに対して受講生の諸君がどのように考えるか、授業中のレポートという形で書いてもらおうと考えている。</p> <p>授業スケジュール: 01 回目 イントロダクション(概論) 02 回目 (つづき) 03 回目 存在 「在る」のさまざまな意味 04 回目 時間空間の中に「ある・ない」 05 回目 時間 存在するか? 06 回目 流れているか? 07 回目 幅はあるか? 08 回目 過去や未来はあるか? 09 回目 行為 行為と単なる動作・振舞いの違い 10 回目 行為の分類 11 回目 自由 行為と選択意志 12 回目 自己決定と隷属 13 回目 自由意志と決定論 14 回目 因果連鎖と自由選択 15 回目 定期試験 又は 通常授業</p>					
キーワード						
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定はしない。必要であればプリント等の資料を適宜用意する。 参考文献は講義で紹介する。					
成績評価の方法・基準等	学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらう。その内容でもって講義に対する積極性という平常点を判断する(配点20%)。 学期末試験は記述形式で二問。一つは授業内容の要約(配点40%)で、もう一つは自らの意見を展開してもらう(配点40%)。					
受講要件(履修条件)	授業を真面目に聴き、理解しようという意欲のある者に限る。					
本科目の位置づけ/学習・教育目標						
備考(準備学習等)						